

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ
**新聞用完全無処理サーマルCTPプレート
 『SUPERIA ZN』が「技術開発賞」受賞**
 国内初の実用化、製作コスト削減・省力化への寄与に高い評価

平成28年1月21日

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社(社長:真茅久則、以下FFGS)は、昨年7月に発売した新聞用完全無処理サーマルCTPプレート『SUPERIA ZN』に関して、一般社団法人日本新聞協会より「技術開発賞」を受賞しました。

技術開発賞は、新たな新聞製作技術の開発に貢献したメーカーに対し、実用化への促進奨励とその開発努力を日本新聞協会が表彰するもので、3年に1度(平成21年までは2年に1度)開催される新聞製作技術展『JANPS』に出展された新聞製作機器・システムを対象として、同協会技術委員会により選考されます。同賞が創設された平成7年以来、材料関連メーカーの受賞は今回が初めてとなります。

今回の『SUPERIA ZN』の受賞は、「新聞印刷輪転機に適応した環境配慮型の新型刷版として初めて実用化に成功し、国内の新聞社に導入された」こと、および「高い耐刷力と優れた印刷適性を維持しながら、現像処理を一切不要とする完全無処理を実現するなど、新聞社における製作コストの削減や省力化に寄与した」ことにより、「今後の新聞界の主流となりうる技術として期待される」点が評価されたものです。

去る1月20日、同協会の理事会において授賞式が行なわれ、この席上、FFGSの真茅があいさつに立ち、プレート開発の歴史や今後の取り組みなどについて、次のように述べました。
 「新聞社の皆さまには、フィルムカメラの時代からお世話になっており、版材に関しては、オフセット化当初のPS版から現在のCTP版まで、長きにわたりご愛顧いただいています。CTP版としては、2003年にプレヒートレスの『HN-N』を発売して以来、お客さまのご要望を採り入れながら着々と製品改良を重ねており、その過程で培った技術を活かして、今回、自動現像機不要の完全無処理プレートを完成させることができました。今後も、新聞社の皆さまのさらなる品質向上・作業効率化・環境負荷低減に貢献できるよう、グループの総力を挙げて革新的なソリューションの開発に取り組んでまいります」



左から
 執行役員 新聞事業部長 松浦 国治郎
 代表取締役社長 真茅 久則
 取締役 専務執行役員 営業本部長 磯村 和孝
 取締役 執行役員 技術本部長 伊藤 卓夫



日本新聞協会 白石興二郎会長より賞を受けるFFGS 真茅

【新聞用完全無処理サーマルCTPプレート『SUPERIA ZN』について】

新聞用のプレートには、輪転機での高速・大部数の印刷に対応する耐刷性をはじめ、印刷品質、安定性、システムへの適応性などが高い次元で求められます。『SUPERIA ZN』は、富士フィルム独自の処方技術と、製造工程における精度向上などにより、これらすべての要件を満たしたうえで、アルカリ現像・ガム処理が不要の「完全無処理」を実現しました。

●新聞印刷用途に対応するための2大ブレークスルー

新聞用完全無処理プレートの開発にあたっては、2つの技術ブレークスルーが必要でした。それは、「印刷機上での現像性を維持したうえでの耐刷性の向上」と、「新聞印刷特有のエッジ汚れの防止」です。

①耐刷性の向上

輪転機での高速印刷で求められる高い耐刷性を得るため、「感光層の処方」と「支持体」の両面に新規技術を導入しました。感光層については、商業印刷分野ですでに実績のある無処理プレートをベースに、露光エネルギーによる重合反応をより効率的に促進させるよう処方を改良。これにより、新聞印刷用途に対応できる耐刷性を実現しました。支持体に関しては、「感光層との密着力」をいっそう強固にするため、砂目の微細構造を最適化。表面の凹凸を均一に保ちながら適切なサイズに制御することで、耐刷性とその他性能を高いレベルでバランスさせることに成功しました。

②エッジ汚れの防止

機上現像では、エッジ部の親水性が不足することで汚れが発生しやすくなります。そこで、エッジ部のごく限られた範囲の親水性を向上させる新技術を採用。画像部に影響を与えないよう、親水化工リアをきわめて高い精度で制御することにより、エッジ汚れの発生を抑えることに成功しました。

●導入メリット

すでに『SUPERIA ZN』を導入されている新聞社様からは、さまざまな評価の声をいただいています。

とくに大きなメリットとして挙げられているのは、自動現像機のメンテナンスや液管理が不要になったこと。2～3名で1台あたり数時間かかる自動現像機清掃の作業負荷が削減され、現場の大幅な省力化につながっています。加えて、読売新聞社様からは、「1工場の3ライン中2ラインを無処理化したことで、廃液量が約3分の1に減少した」、中日新聞社様からは、「現像液の使用量が減り、自動現像機のローラーの巻き直しなどもなくなった分、材料コスト・廃液処理コストも削減できた」と、環境効果やコストメリットについても評価をいただいています。

さらに、耐刷性に関しては、「最大60万部・15万インプレッションという中日新聞のサンデー版を安定して印刷でき、十分なレベルに達している」(中日新聞社辻町工場様)、取り扱い性についても、「輪転機や印刷資材を限定することなく、従来の有処理プレートと同様に運用できる」(読売新聞社様)、「キズのつきにくさは、有処理プレートよりも向上している」(読売新聞木場工場様)との声をいただいています。また、品質面でも、「有処理プレートと遜色なく、安定性も申し分ない」と、各社から高い評価をいただいています。

FFGSは今後も、印刷製版機材のリーディングカンパニーとして、先進的な資材・機器の開発に取り組み、新聞・印刷業界の発展に貢献してまいります。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社 広報宣伝部

所在地：〒106-0031 東京都港区西麻布2-26-30 富士フィルム西麻布ビル

TEL : 03-6419-0380

FAX : 03-6419-9896

インターネットホームページアドレス：<http://ffgs.fujifilm.co.jp/>